

優秀賞

失敗を力に変える

福井市文殊小学校 6年 田中陽悠

僕の夢は、スポーツ選手になることだ。そのために三年生から陸上を始めた。

五年生の冬に僕は陸上で足を痛め、運動ができない日が二ヶ月ほど続いた。足の痛みが出だしたのは、全国大会の予選に向けて、一生懸命練習している時だった。最初は、痛みがあってもあまり気にせず、「まあ、もう少しすれば治るだろう」と軽く考えていた。でも、一ヶ月たっても痛みはなくなり、それどころかだんだん痛みが強くなるばかり。とうとう歩けないくらいになってしまった。病院に行ってみてもらうと、結果は「疲労骨折」。痛みをがまんしてやり続けてしまった僕の失敗だった。「ちゃんと言ったことを聞いて、やめておけば良かった」と後悔ばかり残った。

それからしばらくは、陸上の練習はもちろん、体育や休み時間のサッカーもできなくなり、自分がとり残されているようで、すごく辛い思いをした。それでも痛みが引いてくると、練習を再開した。足はまだ使えないので、上半身の筋トレを集中的に行った。そのうち痛みもなくなり、いよいよ走る練習を再開した。久しぶりに走った感想は「走れて嬉しい。」そして、今までにはなかった「ぐいぐい前に進む感覚」があった。今までは下半身を中心にして走っていたけれど、上半身も上手に使えるようになり速くなった気がした。

僕がこの失敗から学んだことは、「失敗はすればいい。でも、失敗から何を学ぶか、考え、どう次に生かすか」ということだ。僕は、失敗して良かったとは思っていないし、思いたくない。けがをしたことは、すごく辛い経験だった。でも、走れない時に今できることを考えてやったり、走り方をもう一度見直したりしたことで、今の走りができるようになったのだと思う。

常に失敗と成功は隣り合わせ。これから先、数えきれないくらいの失敗をと思う。でも、その失敗から学んで次に生かしていけるように、夢に向かって努力していきたい。